

市民のチカラ

市内で活躍する
さまざまな団体をご紹介します

むさしのチェリーズ

ふたご、みつごの家庭を心身ともにサポート

市主催「ふたご・みつごのつどい」に参加し、当事者の視点で参加者への積極的な話しかけや多胎育児のアドバイスを行っています



「むさしのチェリーズ」は、ふたごみつごの保護者の方々が子育てを一緒に楽しむサークルです。自身もふたごの育児経験者でサークルの代表でもある山下紀子さんは、市が主催する多胎家庭の交流会「ふたご・みつごのつどい」の参加者でした。ここで多胎育児ならではの悩みや楽しさを共有することで、孤独感が和らぎ、かけがえのない仲間ができた山下さん。サークル活動では自身の経験を生かし運営メンバーとともに、多胎家族が交流できる場の拡大を目指しています。市主催の「ふたご・みつごのつどい」では、直接訪れることができない多胎親子がオンラインで参加できるよう「チェリーズCafe Online」を開設。また、桜堤児童館では「ふたご・みつごのつどい」の運営を、さらにサークル参加者のためのLINEグループを作るなど、場所やツールを幅広く提供しています。

「多胎育児を両親だけで行うのは体的にも精神的にも厳しく、社会環境も決して優しくありません。例えば、2022年5月から都内のバスでは双子ベビーカーの乗車が可能になりましたが、世間の認知度が低く利用は難しい状況です。一方家庭内では、24時間切れ間なく続く育児で、気軽に外出することもままなりません。周りに助けを求める気力さえ失う多胎家庭の問題が長い間見過ごされてきました」と山下さん。そんな現状を要望書にまとめ、市へ提出する活動も行いました。市の担当者からの現状改善に向けた積極的な支援もあり、市の多胎支援が充実しつつあるのが本当ありがたいと話してくれました。

現在、サークルに登録している親子は96組。多胎妊娠中の方から中学生の保護者まで幅広く交流しています。「当事者同士の悩みを共有できる」「子育ての先輩から適切なアドバイスがもらえる」など、喜びの声が数多く届いています。「私たちは、悩みや楽しさもひっそくためて、そっと傍らに寄り添っていきたくて、考えて活動をしています。うれしさも不安もみんなて共有しながら、子どもたちの成長と一緒に楽しみましょう」と最後に山下さんは笑顔で語ってくれました。

むさしのチェリーズ

2017年に活動開始。当初は多胎家庭同士の交流を深めるための「チェリーズCafe 交流会」中心に活動。2019年、桜堤児童館から委託を受け、児童館での「ふたご・みつごのつどい」を隔月で運営。その後、コロナ禍において孤立する多胎家庭のため「チェリーズCafe Online」を実施。現在、サークルの運営メンバーは6人。メンバー全員が多胎家庭の当事者でもある。



サークル代表の山下紀子さん（左）とふたごちゃん。運営メンバーの大倉知世さん（右）のふたごちゃんとお兄さんも一緒に会に参加



市役所で開催している「ふたご・みつごのつどい」ではオンライン参加者と会場の参加者が交流できるようサポート